

第2回 松田町総合戦略審議会 議事録

1. 日 時 平成27年9月16日(水) 10:00~12:00
2. 場 所 役場4階
3. 出席者 委員：別紙「委員等名簿」のとおり(平川委員代理：飯野地域元気創造部長)
町 側：別紙「委員等名簿」のとおり(町長、参事ほか)
事務局：政策推進課(吉田課長、椎野課長補佐、柳澤係長、矢口主査)
4. 配付資料
 - ・次第
 - ・松田町人口ビジョンにおける仮説的シナリオの整理(資料1)
 - ・松田町の総人口の推移と長期的な見通し(資料2)
 - ・松田町総合戦略に位置付ける事業(案)一覧(資料3)
 - ・参考資料：第1回 松田町総合戦略審議会議事録
 - ・参考資料：委員提案資料(平川委員、高須委員、宇佐美委員)

【概要】

司会進行(吉田課長)

1. 開 会
2. 会長あいさつ
3. 町長あいさつ
4. 議 事

(1) 松田町総合戦略について

・事務局(政策推進課)より、前回(7月6日)の総合戦略審議会の開催以後での計画の策定に向けた動き(庁内・議会)等についての説明を行う。

・あわせて、前回の総合戦略審議会での各委員からの意見への対応についての説明を行う。

高須 委員：定住促進が松田町の総合戦略の中心になるとは考えているが、定住促進においては全国の自治体の中で考えており、他市町村との競争が厳しい部分である。そうした厳しい状況の中での取り組みで茨城県や静岡県等では定住に対する支援策等を実施している。

定住促進を行っていくうえで必要なことは仕事づくりであると考えており、地域の住民や企業のニーズに応じていくことが重要ではないかと捉えている。

前回会議での資料のアンケート調査を踏まえると、行政で取り組むこと、民間で取り組むこと、官民で取り組むことがある。

民間で取り組むことはビジネスの種になることと、地域で事業を展開している法人のニーズに応じていくことで、地元企業が元気になってくれば、雇用が発生してくるのではないかと考えている。

アンケート調査で地域に買い物をするところが少ないという声が出ていたが、アマゾンが小田原物流センターを活用して日用品の宅配を開始するとした記事も掲載されており、これからの高齢者社会を考えると、必ずしも近くにスーパーがないから不便であるという話しではないかと考えている。

高齢化が進めば買い物で重い荷物を持ってこることも大変となるので、宅配事業等を展開するということも選択肢となってくるかと捉えており、地域の住民や企業等のニーズに応じていくことで仕事を創り出し、そのことによって定住を促していくことが地方創生ではないかと考えている。

事務局：住民のニーズが広域化するなかでの住民の求める物品販売等でのITを利用した取り組みは可能であると思われるが、現在の人口構成での70~80歳代ではITを上手く使いこなすことが難しいことや、商店等としてもコスト面等を踏まえると難しい状況となっているが、将来的(20~30年後)にはパソコン等の利用できる年代になるので書籍や生活物資、生鮮食料品等も購入できるので、そ

の段階ではないかと捉えている。

現在のところは生鮮三品等が購入できる移動販売を実施し、将来的にはIT化も必要であると考えており、今はちょうど過渡期の段階であるので、その点を加味したなかで考えていきたい。

平川委員 榎：これまでの松田町の成り立ちや交通の要衝、街なかの人口減少等を踏まえて、取り組みを考えていかないといけないと捉えている。

もう1つの切り口としては、昔の個店を中心とした商店街を活かしていくなかで、小さな店舗への出店を進め、新しい仕事として少しずつ増やしていくほか、空き店舗や空き家を活用して街なかの賑わいを取り戻していく施策として取り組むときに、これまでの流れと違う切り口でできる要素があれば、松田町としての取り組みを進めることで他市町村との差別化したものができ、良いのではないかと考えている。

2つの駅（小田急線新松田駅、JR御殿場線松田駅）があるので、両駅の連携した核づくりができないものかと考えている。

事務局：駅周辺については、市内においても交通の要衝として捉えているほか、商店街等の空き店舗は、総合支援の事業計画で商工会や金融機関と連携して支援を行っているところである。

本山 町長：松田町は足柄上郡全体で見たときに、小田原に次ぐ第2にハブ機能を持つ都市であり、本町を含めた周辺地域は、まとまりやすい地域でもあることからネットワークで連携しながら各市町村の特徴や担う役割のなかで、住宅地、歴史や文化を中心として広域的な取り組みを進めていく方向性ではないかと考えている。

そうしたなかで、これまで取り組めてなかった新松田駅北口周辺の広場整備について、関係地権者の方々と交渉等を進めているところである。また、新松田駅南口は事業が休止していることもあるので全体を踏まえて検討を進めていく。また、川音川と新松田駅間の地区で、思い切って区画整理事業等を実施し、何十年後には新しい町としていくことも含めて、現在は南口のみのものであるので、開成町や大井町等の周辺市町村の計画を踏まえ、地域が全体として活性化させていくことを松田町として提案をしながら進めていきたいと考えている。

松本 委員：駅周辺の人々は徒歩利用であると思われるが、雨天時や周辺地区の人々は車を利用する割合が高くなるなかで、新松田駅をどのように利用していくのかを考えていくこともお願いしたい。

宇佐美委員：総合計画の焼き直しとなっているのではないかとイメージを非常に強く持っている。

総合計画の策定の流れ等を踏まえると内向きな計画であるので、地方創生に向けた計画として戦略的な考え方を持つべきであり、松田町の想いとビジョンを明確に示すべきではないかと考えている。

その点では、まず、最初に情報収集を行うべきではないかと捉えている。

計画は実行性を重視して取り組んでいかなければならないが、戦略は少し肩の力を抜いて、情報収集等を行ったうえで将来の町のイメージ（夢）を描いても良いのではないかと考える。

古舘 会長：総合計画と総合戦略の整合性については、まちづくりアクションプログラムの定住化に向けたプロジェクトの取り組みでは5つの柱で示されているが、総合戦略の4つの基本目標に沿って区分しているため、整合性は図れている印象を持っている。

確かに、総合計画に縛られないで戦略として示していく側面も必要であると思うので、留意していただきたい。

本山 町長：松田町として何を進めていくのかということであると捉えている。

雑誌を見ていて、その中で2つの意見があり、1つは「内需の拡大」、もう1つは「地産外商」という意見で、そこで地域側的に、松田町は過去の栄光的なものが残っており、これだけ人口が減少しているなかで商店街がどのような工夫をして取り組もうとしているのか。町の方も追求しているが、担い手の不足や

高齢化の進行等ならば、そうであれば外から連れてくるという話しになると思っている。

それで、空き店舗もあるので空き店舗のなかに人を連れてきてやるのかという新しい形ができると考える。

どこもそうであるように、人もそうで他人に必要とされることで成立するので、松田町がどのような人をターゲットに必要とされる町となるのかを明確にしながら、策定を進めていかないといけないのではないかと感じている。

交流人口を増やししながら、「松田町はこういうところで、こういうことをしているのか」を感じてもらい、松田町に行こう、松田町に住もうと思ってもらえるような観光を考えつつ、進めていきたいと考えている。

宇佐美委員：ふるさと納税の返礼品のような大胆さや松田町としての特徴性をPRしていくべきである。

西田委員：基本目標での「安心して…」の意図はどのようなことなのか。

「新たなブランドづくり」は、現在のものがどの程度、活用できているのか把握し、新しいものが必要であるかを判断する必要がある。

事務局：安全・安心については、総合計画でのアンケート調査において、町内への防犯灯の設置や広い道路の整備等が求められている。

地域ブランドは、特産品開発と開発に連携してブランド化して販売していくことを想定している。

地域の特産品では、鮎料理やとろっこ芋、さくらマスがあり、こうしたものを松田ブランドとして、今年度に商工会と連携して進めている。

久郷委員：足柄上郡、下郡、西湘ごとに特徴をもっているが、日本創世会議で消滅自治体として示されている。

個別の単独自治体では限界性があるので、各市町村が連携し、地域全体のポテンシャルを高めていく必要がある。また、交通網の高い利便性から広域的な生活圏が形成されている。

県のプロジェクトとして進めている未病をキーワードに隣接する大井町のブルックス(株)では未病いやしの里、南足柄市の富士フィルムでの健康づくり事業、小田原市のかまぼこでのギネスへの挑戦等の取り組みも進められている。町の特性を活かした事業の立案・特徴のあるものとしていくべきである。

平川委員：【さがみ信用金庫からの提案】

新たな起業への仕組みとして行政・商工会・金融機関とが一体となった体制づくりを進めて支援を行っていく。内外を問わず、何かを仕掛けていく上では、空き店舗や空き家の活用していくことも想定される。

そうした空き店舗や空き家に若い世代が出店するなどの動きができてくればと考えている。

高須委員：【横浜銀行からの提案】

地域起業に向けた応援パッケージとして、全体支援体制を整えている。

地域、個人、企業のニーズの把握から対応を考えて対応を進めていく。

地域が繁栄していくことに金融機関として支援を進めていく。

松田町の地方創生への取り組みへの協力を進めていく。

宇佐美委員：【タウンニュース社からの提案】

エリア全体としての価値を上げていく取り組みを進め、官と民・広域との連携を強化しながら広域に拡散していく。

住民の満足度を高めることにも対応を図っていく。

「オール松田・おもてなし宣言」の「もの」は「心」とする考え方を大切にしながら、取り組みを進めてもらいたい。

事務局：資料3に戦略事業を4つの柱ごとに区分したものとして整理しており、現在、庁内で検討を進めている。

(2) 松田町人口ビジョンについて

- ・事務局（都市計画センター）より、松田町の総人口の推移と長期的な見通しについての説明を行う。

古舘 委員：松田町では婚活等を行っているのか。

事務局：松田町では、まちコンの開催を予定している。

男女における未婚率の割合を調査してみると、35～45才で高くなっている。

また、親元同居に対するニーズがあると同時に、生産年齢人口が多くなっているため、同居等に対する支援も検討していく必要がある。

さらに、松田町へのUターンへの支援の検討も進めていく必要がある。

宇佐美委員：目標指標は、町の決意の現われとしては評価できる。

西田 委員：松田町としての町の機能を維持する人口規模はどの程度であるのか。

事務局：人口推計の結果に伴う生産年齢人口の割合もあわせて検討を進めていく予定である。

西田 委員：人口構成の検討も進めてもらいたい。また、情報の提供もお願いしたい。

宇佐美委員：消滅可能都市は、人口規模で合併の検討も念頭に入れてもらいたい。

高須 委員：全体を通して、神奈川県戦略と松田町の事業が重なる点も多い。

財源は国と市町村で50%であるので、神奈川県や広域の連携による取り組みを進め、結果・効果を上げていく必要がある。

(3) その他

特になし

6. 閉 会

